

CASBEE-建築(新築)2024年版 ウッディーハウス大型倉庫		■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2024年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.23				
スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の総合評価						2.2
Q1 室内環境						
1 音環境		-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル	Q1 室内環境の項はすべて対象外とする。	-	-	-	-	-
1.2 遮音		-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能	-	-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能	-	-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	-	-	-	-	-
1.3 吸音	-	-	-	-	-	-
2 温熱環境		-	-	-	-	-
2.1 室温制御		-	-	-	-	-
1 室温	-	-	-	-	-	-
2 外皮性能	-	-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性	-	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御	-	-	-	-	-	-
2.3 空調方式	-	-	-	-	-	-
3 光・視環境		-	-	-	-	-
3.1 屋光利用		-	-	-	-	-
1 屋光率	-	-	-	-	-	-
2 方位別開口	-	-	-	-	-	-
3 屋光利用設備	-	-	-	-	-	-
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-
1 屋光制御	-	-	-	-	-	-
3.3 照度	-	-	-	-	-	-
3.4 照明制御	-	-	-	-	-	-
4 空気質環境		-	-	-	-	-
4.1 発生源対策		-	-	-	-	-
1 化学汚染物質	-	-	-	-	-	-
4.2 換気		-	-	-	-	-
1 換気量	-	-	-	-	-	-
2 自然換気性能	-	-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮	-	-	-	-	-	-
4.3 運用管理		-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視	-	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御	-	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能		-	0.43	-	-	2.6
1 機能性		-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ	Q2 1 機能性については、対象外とする。	-	-	-	-	-
1 広さ・収納性	-	-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応	-	-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画	-	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	-
1 広さ感・景観	-	-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース	-	-	-	-	-	-
3 内装計画	-	-	-	-	-	-
1.3 維持管理		-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性		2.6	0.50	-	-	2.6
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	建築基準法を満足しているが、それ以上の増強対策は無し	3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能	免震、制振等アクティブな揺れ抑止装置は導入していない	3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数	建築基準法に定める対策が講じられており、等級IIに相当	3.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	ガルバリウム鋼板を使用し、10～20年毎の塗装改修を想定	3.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防塵塗床材を使用し、10年毎の塗替を想定	3.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	換気ダクトは亜鉛鉄板スパイラルダクトとし、機器取合に蛇腹管併用	3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:HVLP=B、排水:VP・VU 25年耐用=Dとする。(マニュアル補助資料)	3.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔	QB 25年、自火報20年、ヒートポンプ式空調15年(マニュアル補助資料)	3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性		1.4	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備	居室用又は、中央式の空調設備は設置していない。	3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備	衛生器具及び、それに供する給排水無し、雨水の利用計画無し。	1.0	0.20	-	-	-
3 電気設備	-	1.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法	-	1.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備	-	1.0	0.20	-	-	-

3	対応性・更新性		3.0	0.50	-	-	3.0
3.1	空間のゆとり		2.8	0.30	-	-	
1	1 階高のゆとり	階高は、使用上必要な高さとしている。	2.0	0.60	-	-	
2	2 空間の形状・自由さ	XY方向ともラージ構造の為、自由度が高い(180.8÷1498.55)	4.0	0.40	-	-	
3.2	3.2 荷重のゆとり	床・小梁算定用積載荷重に十分な荷重を見込んでいる。	4.0	0.30	-	-	
3.3	3.3 設備の更新性		2.6	0.40	-	-	
1	1 空調配管の更新性	中央式空調設備を設置していない。	3.0	0.20	-	-	
2	2 給排水管の更新性	屋内消火栓配管交換時には仕上材を痛める必要がある。	3.0	0.20	-	-	
3	3 電気配線の更新性	仕上材を部分撤去すれば、構造材は傷めず更新可能。	3.0	0.10	-	-	
4	4 通信配線の更新性	仕上材を部分撤去すれば、構造材は傷めず更新可能。	3.0	0.10	-	-	
5	5 設備機器の更新性	大型設備の設置計画が無いため、対策は行っていない。	1.0	0.20	-	-	
6	6 バックアップスペースの確保	バックアップ設備を設置する必要性及び、計画は無い。	3.0	0.20	-	-	
Q3	Q3 室外環境(敷地内)		-	0.57	-	-	1.7
1	1 生物環境の保全と創出	-	1.0	0.30	-	-	1.0
2	2 まちなみ・景観への配慮	-	2.0	0.40	-	-	2.0
3	3 地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	2.0	0.50	-	-	
3.2	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	2.0	0.50	-	-	
LR	LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	2.7
LR1	LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	2.4
1	1 建物外皮の熱負荷抑制	BEIm=0.29	-	-	-	-	-
2	2 自然エネルギー利用(直接利用)	自然エネルギー利用の取組みは行っていない。	3.0	0.33	-	-	3.0
3	3 設備システムの高効率化	エネルギー消費に係り、対象外	-	-	-	-	-
	集合住宅以外の評価	-	-	-	-	-	-
	集合住宅の評価	-	-	-	-	-	-
4	4 効率的運用に向けた取組み		2.2	0.67	-	-	2.2
	集合住宅以外の評価	-	2.2	1.00	-	-	-
4.1	4.1 モニタリング	照明器具に関する取組みとする。以下4項において同様。	2.0	0.40	-	-	-
4.2	4.2 運用管理体制	-	2.0	0.40	-	-	-
4.3	4.3 非化石エネルギーの導入の拡大	積極的な取組みを行っていない。	3.0	0.10	-	-	-
4.4	4.4 コミッシンニングの推進	積極的な取組みを行っていない。	3.0	0.10	-	-	-
	集合住宅の評価	-	-	-	-	-	-
4.1	4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	-
4.2	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	-
LR2	LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	2.7
1	1 水資源保護		3.0	0.20	-	-	3.0
1.1	1.1 節水	給水設備無し、消防用設備は対象外とする。	-	-	-	-	-
1.2	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	1.00	-	-	-
1	1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用設備の導入計画無し。	3.0	0.70	-	-	-
2	2 雑排水等利用システム導入の有無	雑排水の発生対象が無い。	3.0	0.30	-	-	-
2	2 非再生性資源の使用量削減		2.6	0.60	-	-	2.6
2.1	2.1 材料使用量の削減	-	2.0	0.10	-	-	-
2.2	2.2 既存建築躯体等の継続使用	新築の為、既存部分の再利用は無い。	3.0	0.20	-	-	-
2.3	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	主要な構造部分への利用なし。	3.0	0.20	-	-	-
2.4	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	-
2.5	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	2.0	0.10	-	-	-
2.6	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	内装、設備の更新時、容易に取り外せる。	4.0	0.20	-	-	-
3	3 汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20	-	-	3.0
3.1	3.1 有害物質を含まない材料の使用	化学物質排出把握管理促進法の対象物質に関し、未検証。	3.0	0.30	-	-	-
3.2	3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	-
1	1 消火剤	ガス消火設備無し。	-	-	-	-	-
2	2 発泡剤(断熱材等)	ネオフォームは炭化水素系ガス発泡の為、ODP値=0である。	3.0	0.50	-	-	-
3	3 冷媒	全て、R32冷媒を使用している。	3.0	0.50	-	-	-
LR3	LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	3.0
1	1 地球温暖化への配慮	CO2排出量 75%	4.4	0.33	-	-	4.4
2	2 地域環境への配慮		2.3	0.33	-	-	2.3
2.1	2.1 大気汚染防止	生産設備等の大気汚染物質発生源は無い。	3.0	0.25	-	-	-
2.2	2.2 温熱環境悪化の改善	-	2.0	0.50	-	-	-
2.3	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.5	0.25	-	-	-
1	1 雨水排水負荷低減	雨水流出抑制に関する行政指導無し。	3.0	0.25	-	-	-
2	2 汚水処理負荷抑制	水質汚染に係るような廃液、排水の発生無し。	3.0	0.25	-	-	-
3	3 交通負荷抑制	管理用及び、配送業者の駐車に支障無きよう配慮する。	3.0	0.25	-	-	-
4	4 廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25	-	-	-
3	3 周辺環境への配慮		2.4	0.33	-	-	2.4
3.1	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	-
1	1 騒音	換気、空調設備は静音であり、騒音の発生源は無い	3.0	0.33	-	-	-
2	2 振動	換気、空調設備は静音であり、振動の発生源は無い	3.0	0.33	-	-	-
3	3 悪臭	悪臭の発生源は無い	3.0	0.33	-	-	-
3.2	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		1.6	0.40	-	-	-
1	1 風害の抑制	-	1.0	0.70	-	-	-
2	2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-
3	3 日照阻害の抑制	建物高さ10mであり、日影規制に当たらない。	3.0	0.30	-	-	-
3.3	3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	-
1	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外広告照明を設置していない。	3.0	0.70	-	-	-
2	2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	艶消し、濃色の外壁色を採用、ガラスの反射対策無し。	3.0	0.30	-	-	-

CASBEE-建築(新築)2024年版

ウッディーハウス大型倉庫

<